

黄金色に実った稲穂、その上を飛び交う赤とんぼが秋の訪れを告げています。

8月の台風5号は岐阜県を通過しましたが、幸い被害もなく安堵しています。九州北部豪雨の犠牲になられた方々の御冥福をお祈りすると共に、被害にあわれた皆様には心からお見舞いを申し上げます。

さて、広報誌や新聞、テレビでの報道で御存知のことかとは思いますが、今年の8月15日の終戦記念日は、本村にあっては特別の日となりました。

元米軍海兵隊員のマービン・ストロンボさんが、「東白川村出身故安江定男さんの遺品である寄せ書きの日の丸の旗を直接遺族に返したい」という想いで、はるばる本村を訪れたのです。

戦後生まれの私は、戦争についての実感はありませんが、今回の返還式に立会い、明治・大正・昭和と続いた戦争の傷跡に生々しく触れた思いの出来事でありました。

召集令状ひとつで故郷から遠く異国の地に兵隊として赴いた多くの方々や、御家族の心中をお察しするとき、その苦しむたるや言葉に表せない複雑なものであったのではないかと思います。

式典のなかで故安江定男さんの弟の安江辰也さん(東白川村五加宮代)の言葉が胸に響きました。

「将来のある日米の若者が、お互いに遠く故国を離れた南海の島で命のやり取りをしたこと、これほどの悲劇があるでしょうか。しかし、時が過ぎ、今や日本とアメリカは世界でも類を見ない友好関係にあります。マービンさんには積年の思いを遂げてほっとされたことでしょうかいつまでも長生きして下さい。」と言葉をかけられ、会場から大きな拍手が起こりました。

平和の時代を生きる我々がなすべきことを深く考える一日となりました。

戦争は二度と繰り返してはなりません。しかし、世界情勢は我国だけが安閑とされているほど平和ではありません。戦争回避や核廃絶の努力を、各々ができることから一国民として果たすことが求められています。

話題転じて、冒頭にも記しましたが今度の台風5号は、岐阜県直撃のコースが予想されたときには全国各地の被災地のことが脳裏をよぎり、万が一、東白川村で災害が起きた場合の対策をとるべく一晩災害警戒本部に詰めておりました。

今回は大過なく終えることができましたが、本当に「明日は我が身」という思いで災害対策を充実する必要性を強く感じております。村民の皆様にも自分と家族の安全を守るための日頃の備えを強くお願いしたいと存じます。

去る8月20日から21日まで、「日本で最も美しい村」連合の資格委員による再審査を受けました。

この再審査とは美しい村連合の示す4項目の基準に沿った村づくりがおこなわれていて、美しい村連合会員として相応しいかどうかを審査し、更にお互いに進化する事を目指して、加入後5年経つと再審査を受けるものです。

東白川村の村づくりの取り組みについて一生懸命説明し、現地見学もしていただきました。審査の結果はまだわかりませんが東白川村の熱意だけは訴えることができたと自負しています。

平成 29 年 9 月

東白川村長 今井俊郎

(参考記事)

毎日新聞

<https://mainichi.jp/articles/20170815/k00/00e/040/217000c>

岐阜新聞

<http://www.gifu->

[np.co.jp/news/kennai/20170816/201708160859\\_30278.shtml](http://www.gifu-np.co.jp/news/kennai/20170816/201708160859_30278.shtml)